

春季

県高校野球



春季県高校野球選手権は第4日の28日、八戸市長根公園野球場で準決勝2試合を行う。第1試合（午前11時開始）は八工大一と弘前学院聖愛、第2試合（午後1時半開始）は八学光星と青森山田がそれぞれ激突。勝利すれば、6月8日から福島県で行われる東北大会の出場権を獲得する。決勝は29日午後1時半から、3位決定戦は同日午前11時から開催予定。球場では新型コロナウイルス感染対策を徹底した上で、一般客らの入場も認める。（成田亮）

東北懸け4強激突 **あす 準決勝**

▽八工大一―聖愛
2試合連続ゴールド勝ちを収めて勝ち上がったきたチーム同士の対戦。随一の総合力を誇り、攻守に安定感のある八工大一を向こうに回し、打線が上向きの聖愛がどこまで渡り合えるかがポイントとなりそうだ。
八工大一は昨年の春季大会、秋季大会に続き3季連続の4強入り。昨秋の東北大会で活躍した砂や葛西ら上位打線が好調を維持し、2試合とも2桁安打で勝ち上がった。村木、廣野ら投手陣も安定し隙は少ない。
昨夏の甲子園大会に出場した聖愛は秋以降、勝ちきれない試合が続いたが、今大会は長打力を発揮し3試合で計4本塁打。甲子園のマウンドに立った主戦葛西の投球数は少なく、フレッシュな状態で臨めそうだ。

投打に安定感 工大一VS聖愛 長打力を発揮

打率5割超え 光星VS山田高 堅い守り光る

▽八学光星―青森山田
本県高校野球をけん引する2校だが、そろっての東北大会出場は2018年秋が最後で、今回も1校が姿を消すことになる。強打の八学光星に対し、得点力不足にあえぐ青森山田がどう対抗するかが見どころとなる。
八学光星は、4強で唯一の打率5割超え。初戦から2試合連続で2桁得点を記録したが、準々決勝では八工大二に一時逆転を許すなど守備面で不安が残る。制球が定まらない主戦洗平歩の出来が勝敗を左右しそうだ。
青森山田は堅い守りで失点は少ないものの、打率は2試合で2割3分2厘と調子がいまひとつ。準々決勝では弘前工の先発成田晴を打ち崩せず、安打数は相手を下回った。打線のつながりを取り戻すことができるか。